

# 小学校国語科における 思いや考えを明確に書く力を育む指導の工夫 —— 「分割式推敲プラン」の実践を通して ——

長期研修員 丸山 みのり

## 《研究の概要》

本研究は、小学校国語科高学年の「書くこと」の領域で意見文を書く学習において、推敲を「構成」後と「記述」後に分割し、グループで相互に行わせることで、児童の思いや考えを明確に書く力を育むことを目指している。意見文を書く際に必要な指導事項をまとめた『書き技シート』を提示し、児童が学習する際の「手引き」として、個々で考える場や推敲・交流で検討・評価する場で判断の指標として用いていく。また、グループで行う2回の推敲と交流を「ピア活動」とし、児童が学び合う中で意見文を完成させるプロセスを共有していく。推敲を分割し、『書き技シート』を用いて「ピア活動」を行うことの有効性を、授業実践を通して明らかにした。

**キーワード** 【国語ー小 書くこと 意見文 推敲 交流 ピア活動】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-02 平成28年度 259集

## I 主題設定の理由

今日、教科内容の学習を中心とした授業から、資質・能力の育成に向けた教育の質的転換が推進される中、平成27年中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」では、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の過程を視点とした、学び全体の改善が提起された。グローバル化、情報化など社会の加速度的な変化による時代に生きる子どもたちには、個の力を最大限発揮するだけでなく、他者との協働による新たな考えやより良い学びの創出が求められている。

一方、平成27年度全国学力・学習状況調査の本県の結果分析からは、「書くこと」の領域に関わる課題が挙げられ、記述式が弱い傾向が明らかになった。これらを受け、群馬県教育委員会平成28年度学校教育の指針でも、国語科の指導の重点として「教材文や資料の中の言葉、叙述、図表などを根拠に、自分の立場や意見を明確にさせた上で、思考を深める交流を行う」ことが示されている。

「書くこと」については、指導の難しさを感じている教員も多い。その理由として、書く力の個人差や個別指導への対応、授業時数の超過等が挙げられる。そのため、取材・構成・記述・推敲・交流という過程を組んだとき、どうしても時間が足りなくなり「推敲」の過程を抜かしたり、教師側の手直して済ませてしまったりするという実態も見られる。「書くこと」における推敲活動が実際の授業場面で軽視される傾向が現れている。また、国語科は、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し能力の定着を図る教科であり、児童にも指導者にも指導内容が分かりにくい。指導事項を押さえた授業の積み上げをすることが課題として挙げられる。

児童においては、自分では分かっているが、他人が読むと意味の通じない文章になっていることが目立つ。書いたものを「見直す」などの学習は授業で行っているが、間違いの修正にとどまり、学習指導要領解説国語編「B書くこと」の指導事項に示された「よりよい表現に書き直したりすること」や「表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること」について考えるところまでに至っていない。これらの課題から、「書くこと」の指導過程の中で推敲活動をうまく組み入れ、読み手に伝わる文章を書く力を高める必要がある。

「書くこと」における学習過程は「取材→構成→記述→推敲→交流」が一般的である。学習指導要領解説国語編によると、「推敲」は「構成」や「記述」と関連していること、「交流」においては「考えの明確さなどについて」や「表現の仕方に着目して」助言し合うことが示されている。つまり、「推敲」は他の指導事項と関連させて行うことのできる学習活動と言える。そこで本研究では、作文を書き上げる一連の作業を「友達と学び合うピア活動」として単元構成し、児童がお互いの書いたものを書き手と読み手の立場を交替しながら検討する相互推敲活動を設定する。さらに、推敲の過程を構成後と記述後に分割し、観点を絞って検討し合うことで、子どもたちが何について考え交流するかの目的が明確になり、思考の深まりやより良い表現につなげることができると考える。

以上のことから、推敲を視点とする「他者と協働して、思考を深める交流」を行うことで、県の教育課題の解決に向けた国語科の「書くこと」の力を高め、児童の思いや考えを明確に書く力を育もうと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

小学校国語科高学年の「書くこと」の領域において、自分の思いや考えを明確に書く力を身に付けるために、推敲を「構成」後と「記述」後に分割し、文章を見直す観点を示した『書き技シート』を活用して相互推敲することの有効性を明らかにする。

## III 研究仮説（研究の見通し）

### 1 推敲①（構成の明確さ）

構成メモを基に、頭括型・尾括型・双括型などの明確な構成になっているかを考える。自分なりの

構成や材料の意図をグループの友達に説明し、適切な材料を取り入れているか、読み手にも分かる構成になっているかを検討することで、自分の作文の内容や考えを明確にし、より良い構成に作り上げる力を育てることができるであろう。

## 2 推敲②（記述の明確さ）

構成メモに沿った記述になっているか、分かりやすさや説得力ある文章、表現の工夫を取り入れているかを考える。読み手となる友達のアドバイスを基に、自己判断して表現を見直させていくことで文章を精査し、明確な記述に練り上げる力を育てることができるであろう。

## 3 交流（適切に書こうとする態度）

これまでの活動を振り返りながら清書作文の発表を聞き合い、記述の効果や今後に生かしたい点を考える。自己の文章の変化を自覚し、表現のよさに着目させることで、学びを生かしより良い文章にしようとする意欲や、文章を適切に書こうとする態度を育てることができるであろう。

# IV 研究の内容

## 1 基本的な考え方

### (1) 「明確に書く」について

学習指導要領解説国語編の第5学年及び第6学年「B書くこと」の目標は、「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる」である。また、内容の指導事項には「オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること」とあり、「自分の考えなどを明確に表しているか、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧さはないかなどについて確かめること」、「相手が読んで理解しやすいようにさらに改善できる部分について、よりよいものにしていくこと」が示されている。

これらを受け、本研究では意見文を書く学習を設定し、「自分の考えが明確であり、意図に応じた明確な構成で書かれている」こと、「相手が読んで理解しやすい記述である」こと、「学んだことを生かして適切に書こうとする態度が現れている」ことを「明確に書く」と定義する。

### (2) 「分割式推敲プラン」について

本研究では、「推敲」の過程を分割し「構成」後と「記述」後の2回に分けて行うことで、推敲する観点を絞り、何について考えるかを明確にしたグループでの相互推敲活動ができるようにする。

「推敲①」では、構成メモを基に頭括型・尾括型・双括型など明確な構成になっているか、材料は適切かなどを検討し、意見文の構成が明確かを考えさせる。大まかな構成について友達に説明することで、自分の意見文の概観の筋が通っているかどうか、相手に伝わる内容になっているかどうかを検討する。「推敲②」では、主張が明確になるよう、文脈や段落のつながりなどの記述が分かりやすいかを考えさせ、読み手意識を持ち効果的な表現を考えさせていく。「交流」では、より良い意見文になったかを振り返り、記述の効果や今後に生かしたい点を自覚することで、読み手意識を持って書く大切さや学びを生かしてより良い文章にしようとする意欲、国語の知識を用いて適切に書こうとする態度を育むようにする。

この2回の相互推敲と交流を「対話を通して友達と学び合う活動」という意識を持たせて単元構成したものを「分割式推敲プラン」と定義する。「分割式推敲プラン」の手立てとして、以下二つを示す。

#### ① 指導事項を定着させるための『書き技シート』の活用

学習指導要領解説国語編における指導事項を基に、児童が学習する際の「手引き」として活用していくシートを『書き技シート』と定義する。内容別に「構成」「記述」「言葉づかい・表記」の3種類に分け、個々で考える場、グループで検討・評価する場で判断の指標として使い、「明確に書く力」の礎の役割を果たす。本研究では、意見文に必要な指導事項や学習上参考となる言語事項を取り上げた。

「書き技シート①」は、「構成」に関わる事項で、基本の型である「はじめ・中・終わり」にどんな要素を組むか、意見文において、主題を伝える型として「頭括型・尾括型・双括型」についてまとめた。教科書教材を参考に作成した(図1)。

「書き技シート②」は、「記述」に関わる事項で、「どう書いてよいのか分からない」という児童をなくすために、記述の工夫点として「印象的な書き出し」「効果的な表現」「具体的な書き方」を例示した(図2)。

「書き技シート③」は、「言葉づかい・表記」に関わる事項で、文末表現の統一、文や段落のつながりを示す接続語、基本的な表記について例示した(図3)。

いずれも「見直す観点」として、最後にチェック項目を示し、個人で考える際は「明確に書く」ために必要な知識として、相互推敲する際は、文章を修正したり評価したりする根拠として活用できるようにした。

## ② 協働的学びを取り入れた「ピア活動」

「ピア」とは「仲間:peer」であり、「ピア・ラーニング」という、外国人向けに日本語の読み書きの技能教育に取り入れられている、「対話を通して学習者同士が互いの力を発揮し協力して学ぶ学習方法」がある。早稲田大学大学院、館岡洋子教授によると、「ピア・ラーニングにおいて最も重要な概念は協働であり、仲間同士の対等で互恵的な関係の中で、互いに貢献し合い学ぶことを目指す」としている。本研究では上記の学習方法を踏まえ、単元の目標を「友達と学び合って、読み手に分かりやすい(説得力ある)意見文を書こう」と設定し、「対話を通して友達と学び合う活動」を「ピア活動」と定義する。

元来、個の活動となりがちな「書くこと」の単元にピア活動を取り入れ、構成や記述でのつまづきをグループで再検討し、そのアドバイスを生かして自分で再考しながらより良いものにしていく。友達に自分の意見文を読んでもらうことで、読み手意識を持って文章を見直し、気付かなかった点を考えるきっかけにもなる。さらに、「友達と学び合えて良かった」、「学び合ったおかげでより良い意見文が書けた」という実感が持てるようにする。2回の相互推敲と交流を3～4人のグループで行い、意見文を完成させるプロセスを共有していく。

図4は、児童がピア活動のイメージを持てるように活用した資料である。

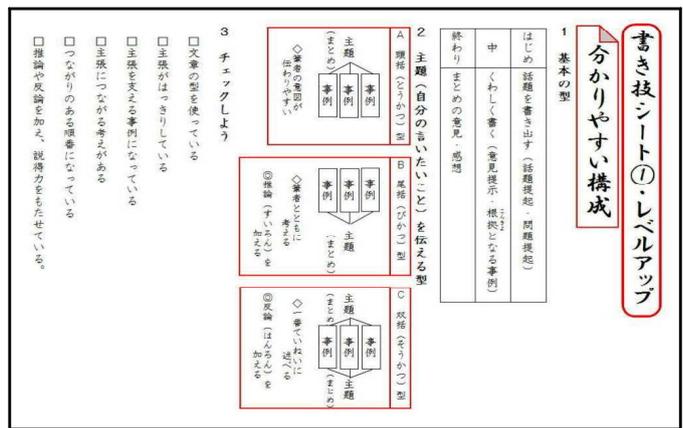


図1 書き技シート①：構成(実践②)

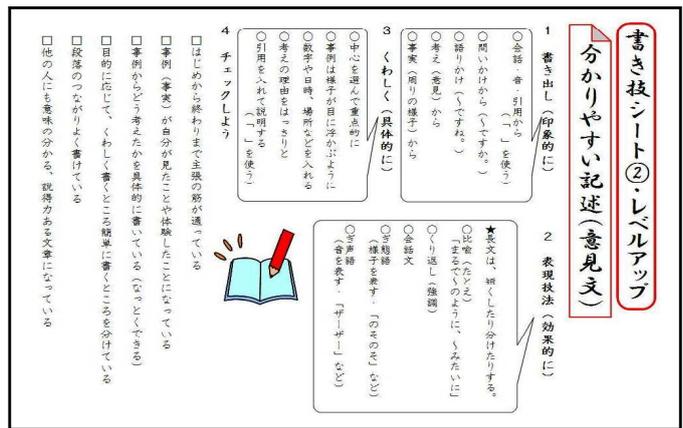


図2 書き技シート②：記述(実践②)

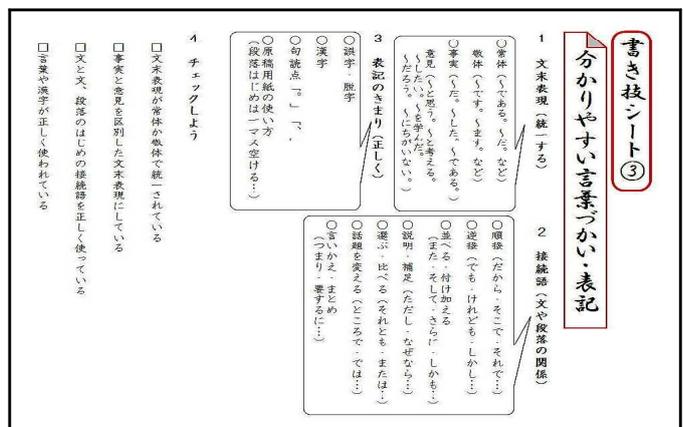
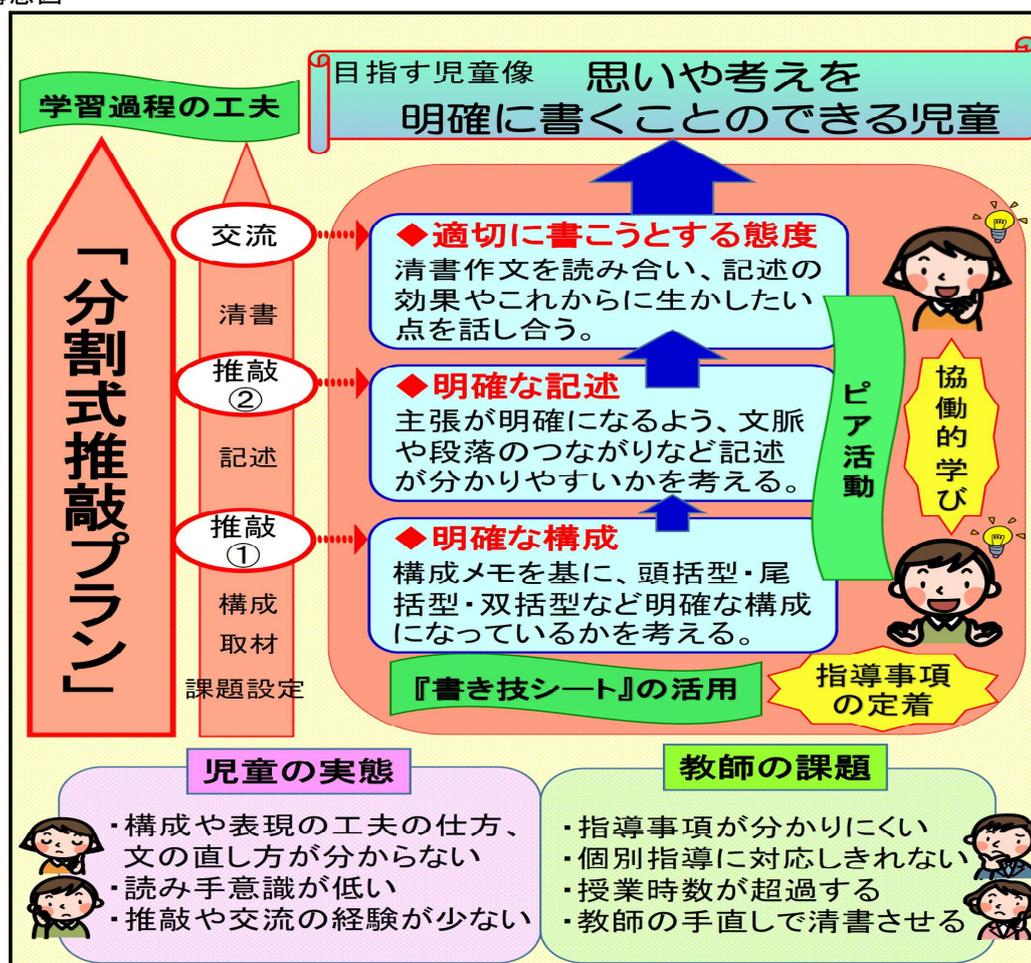


図3 書き技シート③：言葉づかい・表記



図4 「ピア活動」のイメージ

## 2 研究構想図



## V 実践の計画と方法

### 1 授業実践の概要

対象	研究協力校 第6学年 実践①29名 実践②28名
期間	実践①：平成28年6月30日（木）～7月11日（月）（全6時間予定） 実践②：平成28年10月21日（金）～11月1日（火）（全6時間予定）
教材名	実践①：「読み手に分かりやすい意見文を書こう」（文章構成の効果を考える①：学校図書） 実践②：「説得力ある意見文を書こう」（文章構成の効果を考える②：学校図書）
学習内容	実践①：「頭括型」「尾括型」「双括型」の文章構成の型を用いて 400～600字程度の意見文を書く。 テーマは「残りの小学校生活をより良くするために」 実践②：「尾括型」「双括型」の文章構成をアレンジし、推論や反論を加えた型を用いて 400～600字程度の意見文を書く。テーマは、「郷土の歴史・文化・自然について提言しようー郷土の未来がより良くあるために」

### 2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1 推敲①	構成メモを基に、頭括型・尾括型・双括型などの明確な構成になっているかを考えさせる。自分なりの構成や材料の意図をグループの友達に説明させ、適切な材料を取り入れているか、読み手にも分かる構成になっているかを検討したことは、意見文の内容や考えを明確にし、より良い構成に作り上げる力を育てる上で有効であったか。	構成メモの変容 対話の内容 感想記述 構成メモの朱書き

見通し2 推敲②	構成メモに沿った記述になっているか、分かりやすさや説得力ある文章、表現の工夫を取り入れているかを考えさせる。読み手となる友達のアドバイスを基に、自己判断して表現を見直させていくことで文章を精査し、明確な記述に練り上げる力を育てる上で有効であったか。	記述後の第一次作文 付箋メモ 対話の内容 感想記述 第一次作文の朱書き 清書作文
見通し3 交流	これまでの活動の様子を振り返りながら清書作文の発表を聞き合い、記述の効果や今後に生かしたい点を考えさせる。自己の文章の変化を自覚し、表現のよさに着目させることで、学びを生かしより良い文章にしようとする意欲や、文章を適切に書くようにする態度を育てる上で有効であったか。	清書作文 対話の内容 感想記述 事後アンケート

### 3 抽出児童

児童 A	理解力はある、的確に発言できるがやや控えめなところがある。指導事項が未定着な部分がある。文章は簡潔に書くことができるが、具体性に欠ける。 推敲①（構成）では、友達へのアドバイスで活躍させたい。また、自分の構成メモが的確かを見直させたい。推敲②（記述）では、友達の文と比べることで、詳しく書くための具体例に気付かせていきたい。交流では、以前の自分の作文と比較し、工夫点に気付かせたい。
児童 B	自分の考えをまとめて表現するまでに時間がかかり、表現活動に苦手意識を持っている。意味の通らない文になることもあり、どのように文をつなげば良いか混乱してしまう。 推敲①（構成）では、友達の構成の内容に注目させ、どのような要素をメモに加えたら良いかを考えさせる。記述の場面では、加えたメモを元に更に詳しく文章に表していくよう支援する。推敲②（記述）では、文脈のつながりが分かりやすいかに着目しながら、友達の文を読ませ、自分の文章も考えさせたい。交流では、友達の作文で参考になったこと、自分の作文の変化を実感させ、主題の分かりやすい意見文の書き方をつかめるようにしたい。

### 4 単元の目標及び評価規準

#### (1) 実践①

目標	文章構成の型について知り、構成や自分の主張が明確になるようにアドバイスし合い、読み手に分かりやすい意見文を書く。	
評価規準	国語への 関心・意欲・態度	学校生活の中から自分の伝えたいことをはっきりさせ、文章の工夫点や改善点を見付けて生かそうとしている。
	書く能力	文章構成や根拠を明確にして、分かりやすい文章にするための改善点を見付けながら書くことができる。
	言語についての 知識・理解・技能	頭括型、尾括型、双括型それぞれの構成の効果を理解し、接続語や文末表現を適切に用いて書いている。

#### (2) 実践②

目標	効果的な論の展開について知り、つながりある構成で自分の主張が明確になるようにアドバイスし合い、説得力ある意見文を書く。	
評価規準	国語への 関心・意欲・態度	これまでの体験を踏まえ、郷土について自分の思いや考えをはっきりさせ、構成や文章の工夫点・改善点を見付けて生かそうとしている。
	書く能力	文章構成や根拠を明確にして、分かりやすく説得力ある文章にするための改善点を見付けながら書くことができる。
	言語についての 知識・理解・技能	帰納法（事例→結論）や演繹法（結論→事例）の述べ方、推論や反論を加えた述べ方などの文章構成を理解し、接続語や文末表現を適切に用いて書いている。

5 指導計画

時間	単元課題	学習課題	評価の観点			
	○主な学習活動	★研究上の手立て	評価規準 (評価方法)			
事前	※本研究では題材探しについて2週間前に投げかけておき、約1週間かけて題材シート、仮の主題を決めるところまでを時間外で行う。					
1	実践①	実践②				
	<p>友達と学び合って、読み手に分かりやすい意見文を書こう。(単元課題)</p> <p>学習課題をつかみ、文章構成の基本の型とその要素が分かる。</p> <p>○意見文について知り、学習課題をつかむ。</p> <p>○意見文を書くために必要な力を確認し、学習計画表から学習の見通しをつかむ。</p> <p>○意見文の構成「基本の型」とその要素について考える。</p> <p>【言】意見文の基本形「はじめ」「中」「終わり」の要素を理解し、文の要素やつながりを説明している。(発言)</p>	<p>友達と学び合って、説得力ある意見文を書こう。(単元課題)</p> <p>学習課題をつかみ、帰納法と演繹法の述べ方や接続語の使い方が分かる。</p> <p>○「説得力ある」とはどんなことかを確認し、学習課題をつかむ。</p> <p>○順番の違いによる、帰納法と演繹法の述べ方の効果と用いる接続語の使い方を理解する。</p> <p>【言】帰納法と演繹法の二つの論の述べ方とその効果の違いをとらえ、説明している。(発言)</p>			○	
2	教科書教材	教科書教材				
	<p>「頭括型」「尾括型」「双括型」の文章構成の型とその効果や違いが分かる。</p> <p>○教科書例文から、主題の文を探す。</p> <p>○主題を伝えやすくする文章構成の型について知り、その効果を考える。</p> <p>○意見文の題材について話し合い、ピア活動のグループを確認する。</p> <p>【言】主題の位置による文章構成の型とその効果の違いを説明している。(発言・ワークシート)</p>	<p>説得力を持たせるために推論や反論を加え、意図的に書き表す方法が分かる。</p> <p>○教科書例文を並び替え、それぞれの要素について確かめる。</p> <p>○推論や根拠、反論があるものとないもので説得力の違いや効果を話し合う。</p> <p>【言】推論や根拠、反論がある文章の効果について説明している。(発言)</p>			○	
<b>分割式推敲プラン</b>						
3	<p>構成メモを作り、友達と検討し合って、より分かりやすい構成メモにする。</p> <p>○意見文の構成メモを作る。★書き技シート①(構成)</p> <p>○グループで構成メモを説明し合い、アドバイスをもらう。★ピア活動(推敲①)</p> <p>○自分の構成メモを修正し、本時のピア活動の振り返りをする。</p> <p>【言】文章の型を用いて適切な構成メモになっているかを、チェック項目に基づいて説明したりアドバイスしたりして改善点を見いだしている。(発言・構成メモ・学習計画表の振り返りカード)</p>					○ ○
4	<p>構成メモを基に、主題がはっきり伝わる意見文を書く。</p> <p>○書き技シートの内容を確かめる。★書き技シート②(記述)・③(言葉・表記)</p> <p>○構成メモに沿って、自分の考えをはっきりさせた意見文を書く。</p> <p>○書いた意見文を見直し、観点に沿って書かれているか推敲する。(自己推敲)</p> <p>【書】構成メモに沿って、主張の筋が通るように事例や考えのつながりを考え、目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。</p> <p>【言】接続語や文末表現、言葉を適切に用いて書いている。(記述用ワークシート)</p>					○ ○
5	<p>第一次作文を友達と検討し合い、改善点を見付けて修正する。</p> <p>○ピア活動の進め方を知る。★書き技シート②・③</p> <p>○グループで第一次作文を読み合い、アドバイスをもらう。★ピア活動(推敲②)</p> <p>○意見文を修正する。本時のピア活動の振り返りをする。</p> <p>【書】チェック項目に基づいて、記述の内容について友達の作文の改善点を見いだしたり、アドバイスを基に改善点を修正したりしている。(発言・第一次作文の修正)</p>					○ ○
6	<p>清書した意見文を発表し合い、工夫点や今後に生かしたいことを伝え合う。</p> <p>○清書を仕上げ、題名を決め、音読発表の練習をする。</p> <p>○グループで清書原稿を発表し合い、感想を伝え合う。★ピア活動(交流)</p> <p>○ピア活動(交流)やこれまでの学習の振り返りをする。</p> <p>【関】自分の意見文の工夫点や改善点を進んで伝え、友達の発表に興味を示して感想を述べている。(発言・行動観察)</p> <p>意見文の書き方について学んだことを今後に生かそうとしている。(学習計画表の振り返りカード)</p>					○ ○
事後	<p>※伝える相手に、意見文を発信する。</p> <p>実践①…校長・担任(校内掲示) 実践②…教育長・地域の方々(作品集にして配布)</p>					

## VI 研究の結果と考察

### 1 推敲①（構成の明確さ）

#### (1) 授業の実際

各自で構成メモ作成後、ピア活動（推敲①）を行った。自分の意見文の構成についてメモを見せながら、主題・文章構成の型・メモの内容を説明した。説明後、気付いた点を伝え合ったり、改善点や分からないところを一緒に考えたりする時間をとった。特に「書き技シート①」のチェック項目を確かめながら検討した。

全員の検討後、ピア活動での話し合いを踏まえ、自分で判断して「書き技シート①」を確かめながら修正点を赤で加え、構成メモを完成した（図5）。

#### (2) 実践授業①の結果

##### 全体の状況

用いた文章構成の型については、推敲①前と後では児童の41%が変更した（表1）。推敲①前では、頭括型を選んだ児童が31%いたが、推敲①後は2名を除き、ほかは尾括型か双括型になった。型が使えていなかった児童2名も、推敲①後はそれぞれ、尾括型・双括型を用いたメモが作れた（表2）。

推敲①前では、頭括・尾括・双括型の意味が理解できていない児童もいた。頭括型を選んだ児童の中には、自分が説明する中で尾括型や双括型の方が主題がはっきりすることに気付いた児童が多い。このように、自分で説明したり、友達の指摘や考えを聞いたりしたことで三つの文章構成の型の理解が深められたと考える。

メモの内容についても、説明する中でつながりの良くないところ、内容の薄いところなどを話し合う様子が見られ、聞いている児童から「～にしてみたら」と代案が出される場面もあった。推敲後に赤で修正する場面では、いろいろなアドバイスの中で自分が納得し、取り入れられそうなところを再考して修正した。友達からの指摘がなくても、尾括型から双括型にしたり、内容を付加してより具体的なメモにする児童もおり、ピア活動の様子を思い出しながら改善する姿が多く見られた。

##### 抽出児童の状況

児童A	ピア活動では、友達の説明に対して感想や意見を進んで発言していた。友達のメモについて、同じ内容がたくさんあることを指摘し、違う内容を入れるよう提案していた。自分の構成メモは頭括型で、メモの表現が分かりやすくなるようアドバイスを受けた事例を修正し、詳しくできた（図6）。		7 / 5 (すいこう①)
			○友達にアドバイスできた ④ 3 2 1

図6 児童Aのピア活動（推敲①）の振り返り

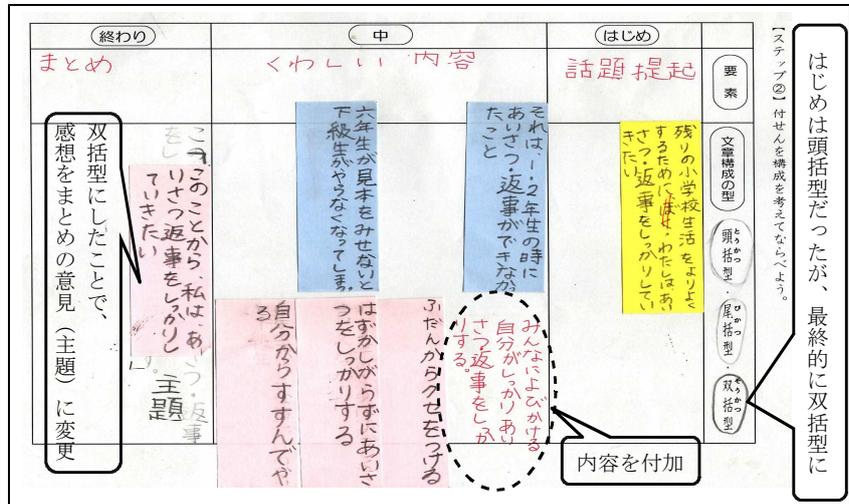


図5 推敲①後に修正を加えた児童の構成メモ（実践①）

表1 構成メモの修正点（実践①）

型の変更	修正点	割合
41% (12人)	頭括→尾括	7% (2人)
	頭括→双括	17% (5人)
	尾括→双括	17% (5人)
内容の付加		34% (10人)
" 削除		14% (4人)
順序の変更		7% (2人)
内容の変更		24% (7人)
変更なし		10% (3人)

表2 文章構成の型の活用状況（実践①）

	推敲①前	推敲①後
頭括型	31% (9人)	7% (2人)
尾括型	52% (15人)	41% (12人)
双括型	10% (3人)	52% (15人)
型が使えない	7% (2人)	0% (0人)

児童B	ピア活動では、構成メモが仕上がっておらず、教師が補助しながらできているところまでを説明させた。自分でも、内容が少ないことは感じたようである。友達から「～を入れてみたら」などのヒントをもらっていた。友達へのアドバイスは、おぼつかないながらも一生懸命考えて発言していた。ピア活動後、事例を修正し、感想の内容を付け足していた。ピア活動に戸惑っていた様子が振り返りの評価数値からもうかがえる(図7)。		4 3 2 ①	4 3 2 ①	4 3 2 ①
			図7 児童Bのピア活動(推敲①)の振り返り		

(3) 実践授業②の結果

全体の状況

今回は「説得力ある意見文」にするため、尾括型か双括型のどちらかを選んで構成メモを作成した。尾括型は14名(50%)、双括型は14名(50%)で、文章構成の型を変更した児童はいなかった。友達に質問を受けて内容を加えた児童が多く、推論や反論を加えるアドバイスも見られた。「双括型の場合、はじめの意見と終わりの意見が同じでも書き方を変えた方が良いのでは」など、説得力を意識してメモのつながりを考えた意見が出されていた(表3)。

表3 構成メモの修正点(実践②)

内容の付加	事例	46%(13人)
	反論	18%(5人)
	推論	7%(2人)
	根拠	4%(1人)
	主張補強	7%(2人)
順序の変更		11%(3人)
内容の変更		7%(2人)
変更なし		18%(5人)

グループによっては、ある程度まとまった構成メモに対して、すぐには意見やアドバイスが出しにくく、改善点が見付からない状況も見られた。その場合は、もう一度「書き技シート①」のチェック項目を見直すよう助言し、検討させた。改善点のアドバイスがもらえなかった児童も、他の児童へのアドバイスなどを参考にしたり、「書き技シートを①」を見直したりして改善点を見付けようとしていた。改善点が見付からなかった児童に対しては、教師が適宜アドバイスした。

振り返りカードによる抽出児童の状況

(下線部 ~ は学びの変容の姿)

- 児童B：アドバイスが前回よりもできたし、もらったアドバイスを直しに使えた。そして協力して話し合えたから、分からないところがあると教えられたり教えたりができた。
- S1：グループの子たちに推敲を入れて、更に分かりやすくなった。新しいメンバーだから前の作文の時のメンバーと考え方などが違う。以前に比べてアドバイスがうまくなった。
- S2：ピア活動をしたことで改善点が見つかった。もっと友達に分かりやすくアドバイスしたい。要素を考えて分かりやすい文章構成を考える。見付かった改善点を大切に直していく。
- S3：みんな良い文章構成ができていたので、あまりアドバイスすることがなかった。次から良いアドバイスができるようにしたい。

アドバイスがうまくなったことや構成メモが良くなったこと、改善点を直す意欲など前向きな姿勢がうかがえる。構成の要素を具体的にアドバイスしている児童が多く見られた。

(4) 事後調査における変容

事前(6月)と事後(11月)の構成に関わる図8の調査結果によると、「段落を分けること」や「全体の構成を考えること」ができるようになったと感じた児童が増加した。このことは、児童が文章構成について理解し、相互推敲により構成を整えて組み立てたり、文章全体の概観を見通す力が培われ、明確な構成に作り上げる意識が高まってきた結果と捉えられる。

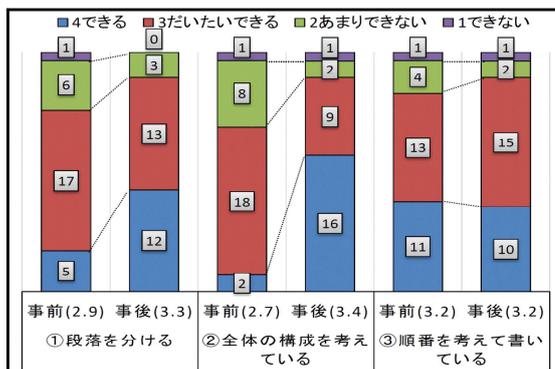


図8 構成に関わる児童の変容の状況

## 2 推敲②（記述の明確さ）

### (1) 授業の実際

推敲②では、前時で「書き技シート②」「書き技シート③」と修正後の構成メモを参考にしながら記述した第一次作文をグループで検討し合い、改善点を見付け修正した。グループでは、原稿を回し読みして良い点、改善点を付箋に記入した。回し読みが終わったところで、一人ずつ改善点を中心に付箋の付いた内容を協議した。

特に、内容面についての検討ができるよう、「書き技シート②」のチェック項目を中心に話し合わせた。ピア活動を踏まえ、修正点を赤で加え、清書した（図9）。

### (2) 実践授業①の結果

#### 全体の状況

意見文の読み合いでは、初めて目にした作文について短時間で気付いた点を付箋に記入するのは、推敲の初心者にとって難しい作業のようであった。良い点は見付けられるが、改善点を見付け、具体的にどう直せば良いかを考えることは難しい児童もいた。それでも『書き技シート』の内容やチェック項目をヒントに、改善点を見付けようとする様子が見られた。検討する場面では、読み手の立場として改善点・改善策を話し合った。書き手にとっては、自分の気付かなかったことを指摘してもらい、再度文章表現を見直すきっかけになった。『書き技シート』を示しながら一緒に改善策を考える様子も見られた。

その後、ピア活動の改善点を中心に各自で修正した。この段階で教師も児童にアドバイスの付箋を渡し、併せて検討させた。清書するときも細かな点を確かめ、微修正を加えながら書く様子が見られた。

表4は、ピア活動前の第一次作文と清書作文を比較し

ての主な変容をまとめたものである。「読み手に分かりやすい」ことを意識して文を修正したり、主張を明確にするために説明を補強したりした様子が見られている。『書き技シート』の内容も意識付けられていることがうかがえる。ピア活動で改善点を見付けたり協議したりする中で、児童は「分かりやすい文章にする」ための視点が持てるようになってきた結果とも言える。このような活動を繰り返し行うことで、客観的に文章を見直す力が培われ、次に文章を書く際の礎となって文章表現力が向上することが期待できる。

#### 抽出児童の状況

（資料に作品例添付）

児童A	<p>【活動の様子】ピア活動では、記述の量が少ないことを本人もよく理解していた。推敲②後の赤での修正は、友達のアドバイスについて部分的に文章を修正していた。清書時にかなりの時間をかけ、友達や教師のアドバイスを取り入れて改善するために練り、前後のつながりを考えて仕上げていた（図10）。</p> <p>【清書後の主な修正点】主張の補強・事例の追加・内容の追加</p>	<p>「友達からのアドバイス」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○短い文で詳しく書いてある</li> <li>○最初、説得する書き方が良い</li> <li>○自分の言いたいことが入っている</li> <li>○最後のまとめが良い</li> <li>○間いを入れてみて</li> <li>▲みんなに話す言葉を入れた方が良い</li> <li>▲中をもっと詳しく</li> <li>【教師のアドバイス】</li> <li>◇短いので具体例（事例）を詳しく付け足してみよう。</li> <li>◇双括型で最後に主張を詳しく書いても良いです。</li> </ul>
-----	--	--

図10 児童Aへの付箋の内容

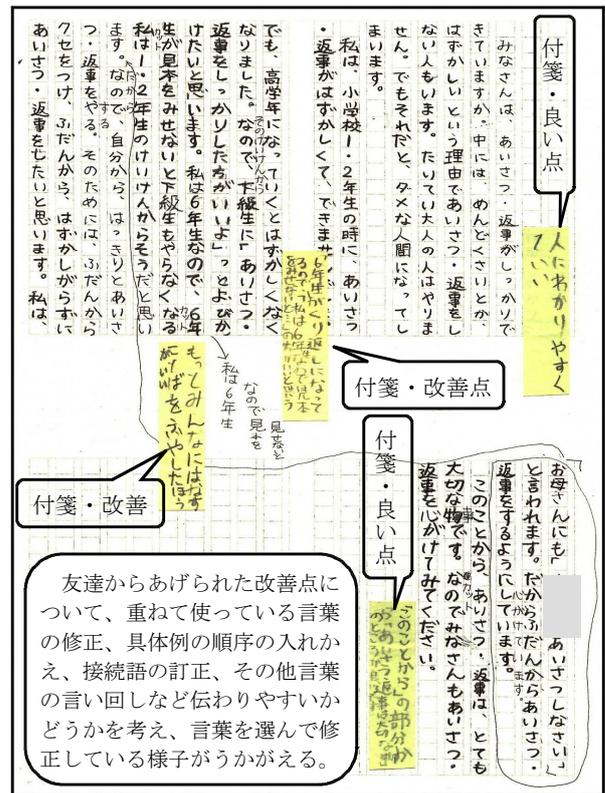


図9 推敲②後に修正を加えた記述シート（実践①）

表4 第一次作文と清書を比較しての主な変容

実践①	文の修正 45% (13人)	長文を短く	10% (3人)
		つながりよく	34% (10人)
記述	45% (13人)	適切な助詞に	7% (2人)
		その他	17% (5人)
		呼びかけ・問いかけの工夫	14% (4人)
		主張の補強	28% (8人)
		事例の追加	7% (2人)
		内容を詳しく追加	10% (3人)
言葉・表記	45% (13人)	文の削除	14% (4人)
		型の変更（→双括）	7% (2人)
		文末表現の統一	17% (5人)
		接続語の修正	14% (4人)
		改行	24% (7人)

児童B 【活動の様子】ピア活動では、グループ内で似たテーマの児童がおり、読み合うことで参考にしてきた。良い点として「詳しく書けている」と付箋に書いていた。また、友達の作文についても同じ内容が書かれている部分を指摘して「削った方が良い」などのアドバイスができた。自分なりにつながりを考え、詳しくしたり工夫したりしながら修正している様子がうかがえた（図11）。

【清書後の主な修正点】文の修正（つながり良く）・主張の補強・内容の追加

「友達からのアドバイス」  
○元氣よくというところが良かった  
▲文章が長い  
▲どこかを議意付けた方がよい  
「教師のアドバイス」  
△終わりの主張を付け足そう  
「元氣よくあいらずしてもらったために」

図11 児童Bへの付箋の内容

### (3) 実践授業②の結果

#### 全体の状況

実践②では、説得力ある意見文にすることを意識付け、「書き技シート②」の記述に関わる内容面の推敲であることを確かめた。実践①に比べると付箋の数も増え、『書き技シート』のチェック項目に沿った内容の具体的なアドバイスができていた児童が多く見られた（表5）。

付箋を書いた後、改善点を中心に協議したが、自分の書いた付箋についてなぜそう思ったのか、どうしたら説得力ある意見文になるかを真剣に考え合う児童の姿が見られた。良いアドバイスをもとらって納得したり、納得できるまで質問したり教え合ったりする様子も見られた。

表5 ピア活動（推敲②）の付箋の実際

〈良い点の付箋〉	〈改善点の付箋〉
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見に説得力がある</li> <li>・意見の後に理由があるのが良い</li> <li>・事例が具体的に説得力がある</li> <li>・理由がはっきりしている</li> <li>・書き出しを工夫している</li> <li>・まとめが具体的</li> <li>・だんだん主題に入っている</li> <li>・話が最後までつながっている</li> <li>・「確かに」を使った反論が良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・双括型なら、最後のまとめの意見をもっとしっかり書く</li> <li>・まとめの主題が分かりにくい</li> <li>・理由を述べる文を加える</li> <li>・同じことが書かれているので、違う書き方してみる</li> <li>・接続語を足して段落を分ける</li> <li>・一文が長い</li> <li>・問いかけを入れてみたら</li> </ul>

表6 第一次作文と清書を比較しての主な変更

実践②	文の修正	長文を短く	18% (5人)
	54% (15人)	つながりよく	43% (12人)
		反論の修正	7% (2人)
記述	呼びかけ・問いかけの工夫		14% (4人)
	主張の補強		64% (18人)
	根拠・反論の追加		32% (9人)
	内容を詳しく追加		25% (7人)
	文の削除		21% (6人)
	その他		18% (5人)
言葉・表記	文末表現の統一		14% (4人)
	接続語の修正		21% (6人)
	改行（段落分け）		18% (5人)
	言葉の修正		11% (3人)

ピア活動を踏まえ、その後の修正や清書は自分の判断で行った。表6の結果から、まとめの主題の記述を再考したり、根拠や反論、内容を詳しく加えたりした様子がうかがえ、深い思考の様子が見て取れた。ピア活動により、自分の文章を見直す視点とヒントが与えられ、短時間でも修正や清書をすることができた。そしてどの児童も、第一次原稿よりまとまりがあり、主題が明確な意見文に仕上げられた。

#### 振り返りカードによる抽出児童の状況

(下線部 ～ は学びの変容の姿)

児童A：「反論が分かりにくい」とアドバイスをもらったので、それをどうやったらうまく書けるか話し合いをした。その結果、自分で反論をうまくまとめられた。

児童B：中をもっと詳しく書いた方がいいとあったからその通りにしたら、(他にも)改善点があった。それに、一つの文を短くしたら、だいぶ良い文になると思う。

S4：どのようにすれば意見文を読んでもくれる人が納得いくようになるか分かったので良かった。清書前の改善点が見付かったので良かった。

S5：どこが間違っているのか、どこをどうした方がいいかをアドバイスすることができた。友達からアドバイスをもらって、どうやって直すのかを教えてもらい納得した。

実践①に比べると、振り返りカードに書く児童の記述が具体的で、指導事項を押さえたものになっているのを見て取れる。『書き技シート』の内容が少しずつ定着してきたことがうかがえる。児童Aは、反論が分かりにくいという指摘を受け、反論をまとめの意見と関連させた内容に変更し、さらにまとめの意見を補強するよう自力で修正できた。友達との協議で得たヒントも参考にしてきた。児童Bは、1回目の実践の推敲①の時とは見違えるほど、回を重ねるごとに意欲的に発言し、友達の指摘をよく吟味して修正していた。他の児童も、相手を意識した文末表現の在り方を検討したり、指摘に対して納得いくまで話し合ったりする様子が見られた。

#### (4) 事後調査における変容

図12の記述の内容に関わる調査によると、4（できる）を選んだ児童がどの項目においても大きく増えている。今回の学習で「説得力ある意見文」にするため、ピア活動を内容面の検討に絞って行った成果が現れている。相手を説得するためには、主題を補完する根拠（理由）や具体的な事例、重きを置くべき内容の吟味が欠かせない。ピア活動として相互推敲したことで、自分の作文だけでなく他者の作文についても考える機会を持つことができた。また、意見文を書く上で、自分の改善点が見分かるだけでなく、どんな場面でどんなアドバイスが必要かも理解していくことができ、文章を客観的に見直す多様な学びが展開された結果と考える。

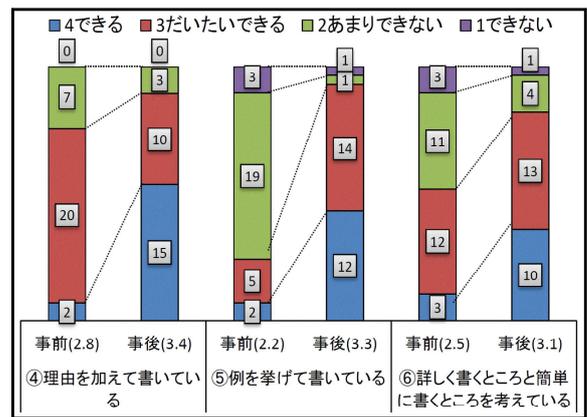


図12 記述の内容に関わる児童の変容の状況

### 3 交流（適切に書こうとする態度）

#### (1) 授業の実際

前半は清書と発表練習を兼ねた音読を、後半はグループ内で音読発表する交流を行った。清書では、朱書きの修正点や『書き技シート』を確認しながら相手を意識して書かせた。その後、意見文の内容が伝わるよう音読練習をしながら、言葉のつながりや言い回し、助詞の使い方などを確かめさせた。題名はこの時点で最終決定した。

交流では、書き方を工夫したことや頑張ったこと、これまでの修正点、意見文の音読を行った。その後、発表を聞いてのよさや自分の参考にしたいことを伝え合った。

#### (2) 実践授業①及び②の結果

##### 全体の状況

同一グループで2回の推敲を行ってきたので、個々の意見文を書き上げてきた状況が児童同士で良く理解できている。交流では改めて友達の発表を聞き、はじめに比べて意見文が良くなっていることに驚く児童もいた。自分のアドバイスを友達が入り入れて直していたことや発表を聞いた友達から良い点を認めてもらったことで、どの児童にも、より良い意見文に仕上がったという達成感や満足感の得られる様子が見られた。

実践②後の図13の調査でも、全員の児童がピア活動として相互推敲したことに良いイメージを持っていることが分かる。交流でも、意見文の発表だけでなく、書き方の工夫やピア活動を踏まえた修正点なども発表したことで、「より良い意見文にする」という学習課題の達成とともに、自己の成長や学び合いのよさを実感することができたと考える。そして、この達成感が、読み手に分かりやすい文章かどうかを考えて書く意識やより良い文章にしようとする意欲、『書き技シート』にあるような国語の知識を活用して書こうとする態度につながるものと考えられる。

本実践で用いた『書き技シート』は、指導事項の定着を図り、指導事項を活用して意見文を書くという適切に書こうとする態度を育てるための手立てとしている。図14は、実践②後にその活用状況をまとめたものである。約2割の児童は活用できていなかったが、約8割の児童は活用した結果となった。考えに戸惑った時や見直しの時に、『書き技シート』をじっと見返す児

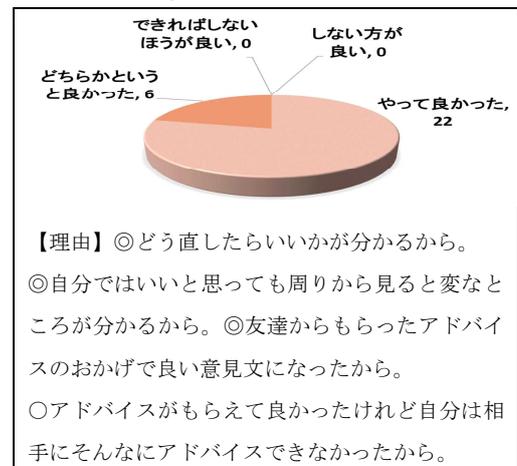


図13 友達と学び合う推敲活動について

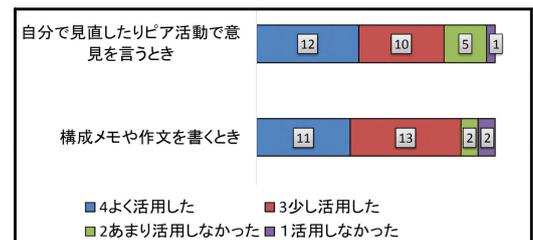


図14 『書き技シート』の活用状況

童が多く見られた。実際の活動では時間も限られており、作業に夢中になってしまう児童もいた。活用できなかった児童の中には「もっと見れば良かった」という声が、活用できた児童からは、「書きやすくなり、文章を書くときにどんなことをすれば良いか分かった」「書き出しが役立った」などの声が聞かれた。

これらのことから、『書き技シート』の提示は、意見文を書くための指導事項を児童に意識付け、それらを用いて適切に書こうとする態度を育む上で有効であったと考える。

**振り返りカードによる抽出児童の状況**

(下線部 ~ は学びの変容の姿)

書きたいです。 る時はさんこうにして から作文を書いたりす たくさんあったのでこれ さんこうにたことか 友達の発表を聞いて、 工夫が分かった	交流 ○協力して話し合えた ○分かりやすい ○意見文になった	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
	(友達の作品) ○内容や表現の 工夫が分かった	(自分の作品) ○分かりやすい ○意見文になった	4 3 2 1	4 3 2 1

図15 児童Aの交流の振り返り (実践①)

**【実践①】**

S2 : 友達の意見文を聞いているとき、自分が言ったアドバイスをしっかり直していたので、ピア活動はいいなと思った。

S3 : 友達のも自分のもいい意見文になったと思う。友達の工夫も参考になったので、みんなにとっていい授業になった。

**【実践②】**

児童A : 友達から良いところを言われてうれしかった。友達のアドバイスを加え、いい意見文が書けた。これからもほめられたことを使いたい。

S3 : 自分の文章が最初の頃と比べてすごく良くなったと思ったので満足している。アドバイスも言えたので良かった。

S6 : 友達の意見を聞いて、説得力があると思った。参考になった部分もあった。また書きたい。作文を書くのが苦手だったけれど少し好きになった。

良くなった。いきました。 他の人の文もとても よかったです。 よりもいい文のたて を書いたら、下書き も書いいたう、下書き とてもよかったです。 工夫をしたところが とてもよかったです。	交流 ○協力して話し合えた ○分かりやすい ○意見文になった	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
	(友達の作品) ○内容や表現の 工夫が分かった	(自分の作品) ○分かりやすい ○意見文になった	4 3 2 1	4 3 2 1

図16 児童Bの交流の振り返り (実践①)

初めての交流である実践①では、友達の意見文が良くなっていることに驚いたり、互いの意見文の表現や工夫点に刺激を受けたりして、次に生かそうとする態度が現れている (図15)。児童Bの評価数値は徐々に向上し、満足感がうかがえる (図16)。実践②でも、良い意見文になったことで書く意欲が向上している様子がうかがえる。清書作文の交流は「友達と学び合い、より良い意見文になった」という実感が得られる場であり、次からもより良く書こうとする意欲を高める活動と言える。

**(3) 事後調査における変容**

図17の推敲に関わる調査によると、「他の人にも分かりやすく書いている」は0.3ポイント上がったが、「誤字・言葉の使い方に気をつけている」や「書き終わった後、見直しをしている」は若干下がっている。

事前調査での数値が比較的高い項目であったことから、自分ではできていると思っていたが、本実践で友達との相互推敲により、自分が気付かないところで改善点があることを自覚した結果と推察する。また、誤字や言葉の使い方に気をつけて、更にしっかり見直すことでより良い作文に近付くことを児童が認識した結果と捉える。『書き技シート』の活用により、具体的な表記上の決まりが児童に意識付けられたものと考えられる。

このように相互推敲によって、他の人にも分かるように書くという読み手意識や、更に間違いを少なくするために見直そうとする態度を培えたものと考えられる。

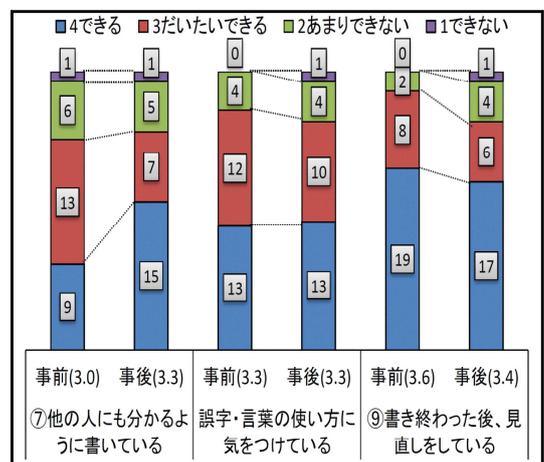


図17 推敲に関わる児童の変容の状況

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 推敲を分割したことで、単元の指導事項である構成や記述の内容について児童がしっかり考える場ができ、それが明確に書く力につながった。推敲①では、構成を整えて組み立てる力や文章全体の概観を見通す力が、推敲②では、言葉を吟味したり文章を精査したりして客観的に見直す力を培うことができた。構成の段階で相互推敲を入れたことにより、次の記述の活動がスムーズに進められ、結果的に児童の学習進度の差が縮まり、同一步調でテンポ良く学習が進められた。
- 『書き技シート』のような指導事項をまとめたものが、児童にとって新鮮で、指導事項を活用して書こうとする態度を育むことができた。活動の中で頻繁に使う場面があり、作文指導において児童の指標（手引き）になるものが必要なことが分かった。ピア活動で『書き技シート』の内容を視点に推敲したことで、指導事項を踏まえた話合いや修正ができ、明確に書く力につながった。
- ピア活動を取り入れたことで、単元を通して児童の主体的・協働的な学びが持続できた。「より良い意見文にする」という学習課題を意識して、最後まで取り組めた。また、仲間意識を持って互いにプラスとなる意見交流を意識付けたことが、教え合いや友達の意見を参考にする姿につながった。特に低位の児童にとって、友達からのアドバイスで一緒に考えたり友達の構成や文章を参考にしたりでき、自分で再考する大きな助けとなった。

### 2 課題

- 『書き技シート』の内容が習得できるよう繰り返し活用を図り、作文を書く上での基本的な指導事項が定着できるようにする。

## Ⅷ 提言

- 本研究は、実践①を意見文の入門として、それを踏まえ、実践②で説得力ある構成や記述の内容の検討を中心とする実践を行った。初めは、推敲の視点を考えたりピア活動の進め方に戸惑ったりしたが、繰り返すごとに活動がスムーズにいき、内容面の検討が深まっていった。深い思考を展開するピア活動にするためにも、積極的に相互推敲の場を設ける必要がある。また、文種は意見文に限らず、他の文種や中学年でも、『書き技シート』の内容を変えることで実践ができる。
- 個々の児童に、教師の支援やアドバイスをどのように入れるかをあらかじめ考え、ピア活動での協働的学びを大切にしながら児童の思考に沿って支援する必要がある。特に、ピア活動で改善点が見付からなかった児童に対しては、教師側から改善の視点を与えることも必要である。推敲の入門期では、教師のアドバイスが児童の推敲の視点の参考にもなるので、児童に任せきりにするのではなく、ピア活動後に実態に応じたアドバイスを段階的に入れる必要があると考える。

### <参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領 国語編』東洋館出版社（2008）
- ・国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』【小学校 国語】（2011）
- ・田近 洵一・井上 尚美 編 『国語教育指導用語事典 [第四版]』教育出版（2009）
- ・森山 卓郎・達富 洋二 編 『国語教育の新常識—これだけは教えた国語力』明治図書（2010）

### <引用文献>

- ・「ピア・ラーニング」館岡 洋子 国際交流基金 日本語教育通信 日本語・日本語教育を研究する 第33回

### <担当指導主事>

佐藤 淳 坂本 直之